近代都市形成史における幕末・明治期古写真の歴史資料としての適用評価に関する研究

長崎大学大学院生産科学研究科
中島　恭子

日本写真史においては，小沢健志氏が古写真研究の開拓者である．彼は写真技術やその導入史，さらには日本写真史初期の外国人写真家および日本人写真師研究の領域を切り拓いた．近年，古写真研究の進展に伴い，写真の撮影者や撮影時期，撮影技術等が詳細に判明している．そのため，これまで行われてきた古写真の基礎的情報に関する研究のみならず，撮影された対象や内容について古写真そのもののコンテキストを分析し，史学，民俗学，地理学，都市工学などの分野において学術的に利用することが可能となってきた．

日本において幕末・明治期の古写真がはじめて大量に紹介され全国的に大きな反響を呼んだのは，1986 年に出版された『甦る幕末』（朝日新聞社）である．そこには前近代から近代へと急速に移行する幕末・明治期の日本の風景や生活文化の姿が鮮明に残されている．これらの古写真をもとに仕立てたアルバムは，当時日本を訪れた外国人たちに好まれ，土産品として海外に持ち出されていた．古写真のいわば逆輸入によって公開された幕末・明治期の日本の姿は，現代の日本人に大きな衝撃を与えた．長崎大学附属図書館では 1988 年から古写真の収集を続け，現在は約 7,100 点を所蔵する国内最大級の古写真コレクションを成している．しかし，これらの古写真が写真史以外の分野で研究対象とされることは，これまでほとんどなかったのが現状である．

本研究は，これまでの古写真収集の成果や写真史研究の進展を受けて，写真史および都市形成史において，幕末・明治期日本古写真が歴史資料として適用可能であるか評価を試みるものである．まず，幕末・明治期日本の代表的な外国人写真家である F．ベアトが製作したアルバムを用いて，収録された長崎写真とそこに付された英文解説の要素分析を行い，対となる写真画像と文字情報に差異があることを明らかにした．次に，近世から近代へ向かう歴史の中で，結節点として重要な位置付けを持つ長崎外国人居留地形成について，古写真を詳細に解読し，文字・絵図資料を用いた従来の文献史学と照合することにより，古写真を歴史資料として精査した．さらに古写真画像の高精細度という特徴をとらえて，地図・図面などの都市形成資料と照合することにより，幕末・明治期古写真の近代都市形成史における歴史資料としての意義と適用可能性を評価した．

本論文は，5 章により構成されている．以下にその概要を示す．

第 1 章では，本研究の背景および目的と研究方法を示し，本論文の構成について説明した．

第 2 章では，幕末・明治期の英文解説付き写真アルバムを用いて，対となっている長崎写真と解説文の要素分析を行うことにより，両者間の差異を定量的に検証するとともに，資料として写真画像と文字情報を照合する重要性を提示した．

第 3 章では，近世から近代へと移行する過程の結節点として重要な位置付けを持つ長崎外国人居留地形成について，古写真を詳細に解読し，文字・絵図資料を用いた従来の文献史学と照合することにより，古写真の持つ豊富な情報量を確認し，幕末・明治期古写真の歴史資料としての意義と活用の可能性について精査した．

第 4 章では，長崎港沿岸部の埋立工事による変化の大きかった近代長崎都市形成の変遷について，居留地建設・橋梁架設・中島川変流工事を中心として，古写真を顕微鏡的に観察し，地図・図面などの従来の都市形成資料と照合することにより，幕末・明治期古写真の近代都市形成史における歴史資料としての適用可能性を評価した．

第 5 章では，本研究で得られた知見を整理し，古写真研究および長崎近代都市形成史研究に関して今後の課題と展望についてまとめた．

また，付録として，長崎大学附属図書館古写真コレクションの収集とデータベース構築の経緯についてまとめ，インターネットを利用した古写真の情報提供や今後の研究利用，教育，出版，放送，ウェブサイトなど，国内外での幅広い活用の可能性を提示した．

本研究から得られた結果は次の通りである．幕末・明治期の解説付き古写真アルバムについて，写真画像と文字情報の要素分析を行い，その結果を照合して写真・テキスト間の差異を検証することにより，資料として写真画像と文字情報を重ね合わせる重要性を提示した．次に，長崎外国人居留地の形成過程について，従来の文書・絵図資料による歴史研究に古写真を照合することにより，古写真画像の持つ豊富な情報量を提示するとともに，既存の文献史学では見えなかった居留地内部空間の動態が詳細に検討できることを明らかにし，歴史資料としての幕末・明治期古写真の意義と活用の可能性を検証した．さらに，幕末・明治期の長崎における都市形成の変遷について，古写真画像の高精細度という特徴を活かして，埋立工事による変化の大きかった長崎港沿岸部の居留地と市街地を中心として，古写真画像を詳細に解読し，地図・図面など従来の都市形成資料と照合することにより，古写真の有する情報量を確認するとともに，近代都市形成過程における都市の変遷を視覚的・空間的に可視化できることを示し，幕末・明治期古写真の近代都市形成史における歴史資料としての適用可能性を評価した．